

協和キリン向け Non-FIT 自家消費型 太陽光発電事業を宇部工場で開始

2022年12月22日

三菱商事クリーンエナジー株式会社（代表取締役社長：藤井隆男、以下三菱商事クリーンエナジー）が出資・運営するMCKBIエネルギーサービス株式会社（代表取締役社長：鈴木優作、以下MCKBIエネルギーサービス）は、2023年3月より、キリンホールディングス株式会社（代表取締役社長 磯崎功典、以下キリンホールディングス）傘下の協和キリン株式会社（代表取締役社長 宮本 昌志、以下協和キリン）の宇部工場にて、PPAモデル導入による太陽光発電事業を開始します。これはMCKBIエネルギーサービスが太陽光発電設備を設置・保有・運用し、そこで発電された太陽光由来の再生可能エネルギー電力を、20年間にわたり協和キリンに供給・販売するものです。なお、本件は環境省「ストレージパリティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業」の採択を受けての実施となります。

MCKBIエネルギーサービスは、2021年からキリンビール株式会社（代表取締役社長 堀口英樹、以下キリンビール）の4工場（仙台・名古屋・滋賀・神戸）にてNon-FIT自家消費型太陽光発電事業を開始、また、2022年からは同社北海道千歳工場、取手工場、岡山工場、福岡工場でも同様のスキームにて太陽光発電事業を開始しており、2023年からは協和キリン宇部工場とメルシャン株式会社藤沢工場を加え、対象工場を10工場に拡大します。本事業により協和キリン

は、年間約1,029トンの温室効果ガスを削減させます。

三菱商事クリーンエナジーは、キリンビール向けエネルギーサービスを開始した2005年以来、同社と連携し、同社及びグループ会社各工場で使用する燃料を重油からガスに転換するオンサイト発電事業、高効率ヒートポンプの導入、排水処理設備から得られるバイオガスを利用した発電や、三菱商事クリーンエナジーが出資・運営する再生可能エネルギー発電所（太陽光発電所）にて発電された環境価値（トラッキング付非化石証書）付きCO2フリー電力の供給など、キリンホールディングスグループの温室効果ガス削減に向けた様々な取り組みを企画・実行してきており、本件はこの取り組みの一環として拡充する施策です。

三菱商事クリーンエナジーは、環境価値の高い再生可能エネルギー由来の電力供給の拡大をはじめとする多様な脱炭素化ソリューションの開発・提供を通じ、環境意識の高いお客さまのニーズに応えつつ、お客さまと共に持続可能な開発目標（SDGs）やサステナブルな事業を推進し、カーボンニュートラル社会の早期実現を目指してまいります。